

第6回（前回）委員会の振り返り（主な意見）

第4章「道の駅あらお（仮称）」の必要性、第5章荒尾市が目指す「道の駅」

- 商品の供給・魅力づくりなどが重要と思われるが、これに関する具体的な記載がないと、実際にうまくいくのかが心配になる。
- 市長も若手農業者の育成など、農業に力を入れていきたいという話も聞いている。

第6章「道の駅あらお（仮称）」の導入機能、施設イメージ、第7章の今後の展開

- 施設経営を持続可能なものとしていくには、市場調査、マーケティング戦略・戦術を策定し、実行する機能などのマーケティング機能が重要である。道の駅の産品販売では、マーチャンダイジングの機能、ブランドマネジメント、プロモーションの実施機能。場合によっては、土産品、特産品などの商品開発にも関わる機能などが必要である。
また、プロデュースやコーディネートしていく機能、ハードに対して、それをどのように運営していくのか、どのように売っていくのか、そこに出荷して本当に売れるのかなど、懸念事項に対応した機能も検討しているという見せ方が重要である。
ただ施設をつくるだけではないということを示したほうがよい。
- どのように運営をサポートしていくのか、また、マーケティング機能を活用して、ニーズに合った商品をどのように作っていくのかが課題である。
- 道の駅あらお（仮称）のネーミングについての検討も必要
- 荒尾市は、未来戦略ということを掲げており、道の駅に来たら未来の体験ができるといったようなものにしていく必要がある。
- 委員の半数近くが欠席している状況で、このような重要な会議を開催してよいものか意識していただきたい。
以前あった大きな直売所やアジアパーク構想など、過去の事例からしっかり学び、道の駅の整備検討を行っていかねばいけない。今現在続いている直売所も厳しい経営状況が続いている。
- 「時間の過ごし方」、「体験」、「思い出」、「感動」などが提供できる素晴らしいポテンシャルを活用することで、「物販」との相乗効果も得られると考えている。
- 年配者が1日中楽しめるような道の駅にしてほしい。生産者の高齢化、後継者不足などから、早く整備しないと出荷者がいなくなってしまう。
若い方に対して農業に意識を向けさせる取組が必要
- 構想は、各機能や他の施設との連携についてイメージを膨らませて、ワクワクできる内容になっていると思う。荒尾ならではの特徴的な部分が示されており、次のステップに進んで前向きな検討ができるのではないか。
- チャレンジスペースは、様々な業態に対応でき、複数が入店できるようなスペースにしてほしい。